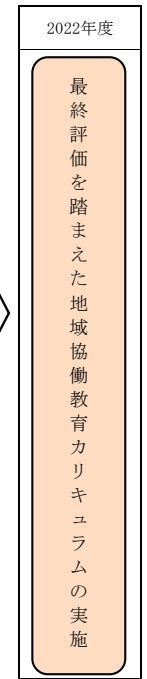


研究開発の年度重点と、研究開発単位の4ヵ年（2019年度～2022年度）計画

年度	2019年度【フェーズ1】			2020年度【フェーズ2】			2021年度【フェーズ3】					
	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期	1学期	2学期	3学期			
研究開発の年度重点	①Aichi地域探究カリキュラムの開発 ②地域協働コンソーシアムの構築 ③地域協働推進連携校の獲得			①国際理解研修カリキュラムの開発と実践 ②地域協働コンソーシアム主体の海外フィールドワークの構築 ③キャリアデザインカリキュラムの構築			①地域協働教育カリキュラムの体系化と共有 (地域協働推進連携校・県内ユネスコスクール) ②指定終了後の自立した運営体制の計画					
活動成果報告会の実施	研究成果報告会 各単位に反映			研究成果報告会 各単位に反映			研究成果報告会 各単位に反映					
地域協働教育カリキュラムの構築	外国語	○地域の外国人留学生と交流する English Zoneの創設 ●アカデミック・イングリッシュ・スキル獲得プログラムの構築と実践 (English Skills・Oral Expression) B, C, D, J, K, O, P			年次報告書の作成と運営指導委員評価	・前年度評価を踏まえた、English Zoneの運営 ・前年度評価を踏まえた、アカデミック・イングリッシュ・スキル獲得プログラムの実施			年次報告書の作成と運営指導委員評価	・前年度評価を踏まえた、English Zoneの運営 ○アカデミック・イングリッシュ・スキル獲得プログラムの手法の共有		
		各教科	○Aichi地域探究カリキュラムの開発と実践 ・教科横断、外部講師の登用 ・生徒の地域理解を評価するCan-Doリストの作成 ●ICT機器を駆使した教育実践 B, C, D, F, G, I, J, K, M, N			・前年度評価を踏まえた、Aichi地域探究カリキュラムとICT機器を駆使した教育実践 ○国際理解研修カリキュラムの開発と実践				○Aichi地域カリキュラム→国際理解研修カリキュラムの連携と、カリキュラムの共有		
SIA	●「多文化共生と減災」「経済活動と貧困」「社会生活と循環」の探究分野に「水とSDGs」の要素を加えた教育課程の編成 B, C, D, E, F, G, H, I, J, K			・前年度評価を踏まえた、教育課程の修正と、国際理解研修カリキュラムとの連携			○地域協働教育カリキュラムの教科教育における最上位となる学校設定教科内容の構築 (研究論文の作成)					
	総合特活	○進路指導部・国際理解研修と連携したグローバルキャリア・プログラムの実践→キャリアデザインカリキュラムの礎 ●国際理解研修カリキュラムに向けた現行研修の総括と評価 ●国際理解講演会（地域キャリア）の実施 B, C, D, F, I, J, K, L, M			○国際理解研修カリキュラムに基づく国際理解研修の運営 ・前年度評価を踏まえたキャリアデザインカリキュラムの構築 ●国際理解講演会（国際キャリア）の実施			○指定終了後の自立した国際理解研修の運営計画の策定 ・キャリアデザインカリキュラムの実践 ●国際理解講演会（生き方探究）の実施				
地域協働コンソーシアム		○地域協働コンソーシアムゼミの開講 B, C, D, E, G, H, I			○各ゼミのリーダーを中心とした海外フィールドワークの計画と実施 ○天白川水系をキーワードとした課題研究の開始 ○地域協働推進連携校との連携			○天白川水系をキーワードとした課題研究の運営 ○コンソーシアム構成組織・機関と連携した、連携校と共催する合同報告会の企画・運営				
	各学期1回の運営評価会議の実施・担当組織から研究単位へのアドバイザー A-P			各学期1回の運営評価会議の実施・担当組織から研究単位へのアドバイザー			各学期1回の運営評価会議の実施・担当組織から研究単位へのアドバイザー					



●従来名古屋国際高等学校で実施していた取り組みを地域課題探究の観点で再編成するもの ○2019年度新規取組

地域協働コンソーシアム構成員と研究開発の関わり（計画表中に記号で2019年度の関わりを明示してある）

	記号	機関名・役割	記号	機関名・役割	記号	機関名・役割
地域協働コンソーシアム	A	栗本学園【管理機関】	H	ユネスコ・アジア文化センター	O	名古屋市立大学
	B	海外交流アドバイザー	I	日進市商工会青年部	P	名古屋大学
	C	地域協働学習実施支援員	J	国際協力機構中部国際センター		
	D	名古屋商科大学	K	名古屋国際センター		
	E	日進市市民生活部市民協働課	L	Immaculate Conception School of Baijing		
	F	認定NPO法人アイキャン	M	名古屋青年会議所		
	G	グリーンフロント研究所構	N	株式会社ウエストボックス		

Aichi地域探究カリキュラムの開発：教科連携カレンダー（2019年度）

Aichi地域探究カリキュラム

○「グローバルに注目を集め、世界とともに成長するあいち」を目的として掲げている「あいち国際戦略プラン2022」を軸として、社会文化的視点、経済的視点、環境的視点から地元愛知を考察する。
 ○本校所在地でもある名古屋市は2014年に「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」を岡山市と共催しており、サステナブルスクールとして「持続可能な開発目標（SDGs）」に関わる先進的な教育実践を踏まえた教育課程を編成し、SDGsの17の目標（表中の1-17）を用いて教科横断を行う。
 ○既存の学校設定科目SIA特論（高校2,3年次）や、新設する地域協働コンソーシアムゼミにおける指導内容の礎を成す教育課程として編成する。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
各 科 連 携	国語	10, 13, 14, 15 【小説】 作品を通じた新たなことへの“挑戦”・近代文学名著に触れる【評論】 論理をつかみ、日本文化の特色に興味を持つ【詩】 作品から人生観・自然観を理解する					地域協働コンソーシアム構成員からの助言・運営指導委員からの中間評価	11, 13 【小説】 レトリックへの理解と、近現代の地域文学への知識【評論】 生物多様性や自然との共生に関わる筆者の主張理解と論証法の理解【短歌】 作品分析と発表					10, 16 【小説】 作品を通じた死生観【評論】 論理的な反論の作成、多様な価値観の容認と新たな視点の模索		
	地歴	3, 9, 16 【世界史】 産業革命や民主革命など歴史変遷と文化の相関を理解し、各時代における人々の幸せを考察する。 8, 9, 11 【日本史】 グローバル化の礎である開国の歴史と、その後の地域産業の発展を理解する。						10, 16, 17 【世界史】 戦争から国際連合組織への変遷と、宗教対立を始めとして、世界各国の社会課題を理解する。 8, 11, 16 【日本史】 産業革命と明治維新からなる民衆文化や社会の変容を現在と比較して理解する。					5, 11 【世界史】 文明の起こりと当時の人々の暮らし、価値観を理解する。 16, 17 【日本史】 現在の国際社会における日本の立場と、これからのあり方を理解する。		
	数学	単元：集合と命題、を活用して、論理的思考力の醸成をはかる。						単元：確率、を活用して、愛知県の各種資料等で用いられている統計情報の分析と、目的に即した統計手段を理解する。 単元：関数、を活用して、地域情報から得られる数値を図式・グラフ化する							
	理科	13, 14, 15 生物多様性 7, 9, 12 物体の運動とエネルギー（地域産業との関わり）						13, 14, 15 生物の体内環境の維持：恒常性維持、生体防御 さまざまな物理現象とエネルギー（課題研究における実験手法）					11, 13, 14, 15 生態系（他者との関わり、共生を考える） 6, 7, 9, 12 電気・エネルギー（人々の暮らし）		
	英語	アカデミックスキル：自己表現、スピーチ、エッセイ 5, 10, 17 血液型、食文化、制服など身近な要素を通じて異文化における異なる価値観を理解し、まとめる。						アカデミックスキル：プレゼンテーション、エッセイ 11, 12, 13, 14, 15 絶滅危惧種、エコツアーなど、人間と自然との関わりを意識し、状況改善に向けた取り組みを企画・発案する。					アカデミックスキル：ディスカッション 6, 9, 11, 12 最先端の科学技術を知り、他と調和した生活や、持続可能性について議論する。		
	音楽	4 楽譜ソフトFinaleを活用した楽譜写譜・観察。音楽・アーティストに関わる個人プレゼンテーション。各国の国歌を通じた異文化理解を行う。											1, 2, 10, 17 『We Are The World』の観賞を通じて、曲が作られるに至った当時の飢餓問題を理解する。		
	美術	4 【各国の仮面を作る】 各国の風習・習慣・伝統を知り、文化の多様性を作品に反映させる。						10, 16 対照と調和、美と醜、聖と俗から自他の作品を鑑賞し、異国への興味関心を高める。					4 【千社札を作る】 作品をデザインする過程で客観的に自己を見つめ、「自分とは何者か」を自問する。		
	保健・体育	3, 5, 8 「健康」の概念について多角的に理解を深める。また、現在グローバルな趨勢となりつつある「ヘルス・プロモーション」という理念と、それに支えられた活動を理解し考察する。						3, 5, 8 健康の保持増進の観点から、調査のとれた生活とはどのようなものかを考察し、喫煙、飲酒、薬、感染症についての基礎知識を得る。					8 人間の欲求と適応機制、心と身体との関わりについて理解する。		
	家庭	3, 4, 16 コミュニティの最小単位である個人と家族との関わりを理解し、持続可能な社会の将来の担い手となる子どもについてその発達と人間形成の過程を理解する。						3, 10 高齢社会と福祉について、日本と海外を比較して考察する。 1, 2, 10 食と栄養について基礎理解を図り、世界と日本の食文化を調理実習を通じて学習する。					8, 9, 11, 12 経済の仕組みと循環型社会について学習し、健康で安全な住生活のための条件を考察する。		
総合的な学習の時間		1-17 「グローバルAichiの魅力発信できる人材」をキーワードとして、あいち国際戦略プラン2022の「国際人材戦略」「産業グローバル戦略」に根付いた地域情報の収集と理解。地域キャリアについての外部講師の登用。					1-17 同プラン内の「魅力Aichi戦略」に関わる愛知の魅力を高校生のアイデアで促進する魅力発信プランの作成。冬期休暇中の地域フィールドリサーチの実施（外部講師との連携）。					1-17 年度の取り組みを総括する校内プレゼンテーション大会の実施。優良プランは年次活動報告会にて発表。			
特別活動		地域で活躍する人材を招いた国際理解講演会の実施					地域調査&地域の良さをまとめ、研究成果報告会（1回目）を実施					研究成果報告会（2回目）の準備と報告会の実施			

*表中の数字は、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標をとの相関を表している。同じ目標番号を持つ単元において教科横断を行う。【持続可能な開発目標】1：貧困をなくそう、2：飢餓をゼロに、3：すべての人に健康と福祉を、4：質の高い教育をみんなに、5：ジェンダー平等を実現しよう、6：安全なトイレと水を世界中に、7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに、8：働きがいも経済成長も、9：産業と技術革新の基盤をつくろう、10：人や国の不平等をなくそう、11：住み続けられるまちづくりを、12：つくる責任、つかう責任、13：気候変動に具体的な対策を、14：海の豊かさを守ろう、15：陸の豊かさを守ろう、16：平和と公正をすべての人に、17：パートナーシップで目標を達成しよう